

にいがた

新潟県立図書館報

第30号

平成16年 3月10日

編集 新潟県立図書館報編集委員会

発行 新潟県立図書館

〒950-8602 新潟市女池南3-1-2

TEL 025-284-6001 FAX025-284-6832

URL <http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp>

所蔵絵図紹介 新潟市地図 羽越線 全通記念博覧会 ...1	紙上データベース 地形図5
レファレンスQ&A 最近の事例から2	このテーマにはこんな本 図録6
レファレンスQ&A 調査相談業務の10年 ...4	インフォメーション8



新潟市地図 羽越線全通記念博覧会

羽越線全通記念博覧会協賛会

大正13年（1924）発行 56×79cm

羽越本線は新津から秋田に至る日本海に沿った270キロの鉄道で、大正元年（1912）9月に新津～新発田間の開業から始まり、大正13年（1924）7月に鼠ヶ関～村上間が開業し全線開通した。

これを記念して路線からは外れているが、県都の新潟市で同年8月20日～9月23日の会期で全通記念博覧会が開催された。会場は2つに別れ、第1会場は現在の新潟市役所本館の位置で新潟県の物産を紹

介する商品陳列館が建てられ、第2会場は同分館の場所で仮設の舞台があり、踊りなどが実演された。

この地図は博覧会への案内のために出版されたものである。当時の新潟市全域図（縮尺1万2千分の1）を載せ、花の印で2つの会場を記している。この全域図とは別に左下に新潟島の細かな地図を載せている。また右下には商品陳列館や市内の主要施設写真を掲載している。

裏には番号を付して協賛会会員と思われる商店等の写真を全面掲載しており、同じ番号を前記の新潟島図上にも載せ、その場所を示している。

レファレンスQ&A

最近の事例から

人というものは、洋の東西を問わず不思議なことが大好きなようで、俗に言う「七不思議」が世界各地に伝えられています。今回は当県に伝わる「越後七不思議」に関する調査事例をご紹介します。

いま、あなたがカウンターで何気なく“越後七不思議について書いてある本はありますか？”と質問したとします。すると、ほとんどの司書は“越後七不思議についてどんなことが知りたいですか？”、“お知りになりたいのは『北越奇談』の七不思議ですか、それとも親鸞の七不思議ですか？”と質問を始めます。そして、その応答や様子から、たとえば“依頼者は越後七不思議に関する専門知識ではなく、入門書程度のものを求めている、「親鸞の越後七不思議」をいわゆる越後七不思議と認識している可能性が高い”というように判断した場合には、次のように回答するでしょう。

初めて「越後七不思議」に触れる際の入門書としては、新潟県教育委員会がまとめた小冊子『越後七不思議』が適当でしょう。刊行されたのは昭和39年とちょっと古いのですが、当館所蔵資料の中では一番分かりやすい資料です。越後七不思議には様々な体系があって、七つの決まった不思議があるわけではありません。まずはこの小冊子を読んでみて、もっと詳しく知りたい点がでてきたら、またご相談ください。

図書館では、調査相談を受ける時、依頼者のご希望に最も近い資料を紹介するため、さまざまな質問をすることがあります。図書館ではこれをインタビューと呼んでいます。越後七不思議のレファレンスに際しては特に必要不可欠なものです。それはなぜかと言うと、このレファレンスが、依頼者の目的によって調査方針や提供する資料が変わる事例の一つだからです。

(その1) 不思議の国“越後”

新潟県教育委員会の『越後七不思議』では、比較的穏当で、しかも一般的に広く知られているものとして、『北越奇談』の七不思議と親鸞七不思議を中心に紹介しています。すなわち、『北越奇談』の1.燃える水 2.燃える土 3.白兎 4.燃える気 5.海鳴 6.胴鳴 7.無縫塔。親鸞七不思議の1. 国府の片葉の葦 2.山田の焼鮎 3.田上のつなぎかや 4.鳥屋野の逆竹 5.安田の三度栗 6.小島の八房の梅 7.小島数珠掛桜です。

ところが、『越後七不思議』(中野城水/著)によると、越後七不思議は「室町・鎌倉以前の古い時代から伝わるもので、当初に選ばれた「七不思議」が何であったかは分からないが、時代を経るに従い「越後七不思議」といわれるものがどんどん増え、最終

的には47にもなった」と言います。現在では自然現象として認知されている事象も多いのですが、昔の新潟は国内有数のミステリーゾーンだったということでしょう。この資料は、昭和24年に刊行された越後七不思議に関する研究書です。文章は読みにくいかもしれませんが、体系を知るには適当な資料です。同様に『越後伝説四十七不思議解』(中原育堂/編)では、明治期における解釈を知ることができます。「七不思議の元祖」と題した章には、6種類の「七不思議」が載っています。全部で40以上の不思議が伝えられているとし、そのうち24の不思議について解説しています。

近世以前の資料としては、江戸時代後期に出版された『北越奇談』(橋崑崙/著)が有名です。同書の解説書『北越奇談物語』(田村賢一/訳著)などには「崑崙はその選定がいい加減だと指摘し、一つ一つに論考を加えて新たに選定している」とあります。この他に、『東遊記』『越後地名考』『越後葉泉』『越後野志』などにも越後七不思議に関する記述があります。

(その2) 親鸞上人の奇跡

越後の不思議として伝えられたもののうち、親鸞上人の事跡に関する不思議を「親鸞の越後七不思議」と称します。こちらを中心に調べたい場合は、親鸞をキーワードに資料調査を行なった方が、適切な資料に速やかに辿り着くことができるでしょう。専門的な知識を得たい場合は、『日本伝説大系 第三巻』(野村純一/編)のp80~89「親鸞」が有用です。この他にも、『親鸞と真宗』(読売新聞社/編)、『北陸・北国の語り』(小学館)、『新潟県風土記』(甘粕健/[ほか]編)、『親鸞聖人伝説』(野々村智剣/著)、『新潟県の不思議事典』(花ヶ前盛明/編)などに簡単な説明が載っています。

(その3) 越後七不思議と親鸞上人旧跡めぐりツアー

“越後七不思議について書いてある資料”とのお尋ねには、民俗や宗教の資料をご紹介することが多いのですが、“実際にその場所へ行ってみよう”というご要望の場合、観光に関する資料の方が役に立つことがあります。この場合、概要が分かる資料に加え、『新潟県観光大百科』(新潟県商工労働部観光課/編)などを紹介します。親鸞の越後七不思議めぐりといえば、新潟県における代表的な観光コースの一つなので、コース

プランが、所在地、電話番号、交通手段、車での移動コ - スなどと共に丁寧に説明されています。『新潟県の歴史散歩』新潟県の歴史散歩編集委員会/編)のようなガイドブックも旅のお役に立つかもしれません。

(参考資料)

『越後七不思議』新潟県教育庁社会教育課/編 1964)『越後七不思議』(中野城水/著 1949)『越後伝説四十七不思議解』(中原育堂/編 1908)『北越奇談物語』(田村賢一/訳著 1980)『北越奇談 現代語訳』(荒木常能/監修 1999)『東西遊記第1』(橋南谿/著 宗政五十緒/校注 1974)『日本伝説大系 第三巻』(野村純一/編 1982)『親鸞と真宗』(読売新聞社 1985)『北陸・北国の語り』(小学館 1983)『新潟県風土記』(甘粕健/[ほか]編 1990)『親鸞聖人伝説』(野々村智剣/著 1993)『新潟県の不思議事典』(花ヶ前盛明/編 1998)『新潟県観光大百科』(新潟県商工労働部観光課/編 1998)

さて、このように当館で働く司書のほとんどが、必ずと言っていい程受けるのが「越後七不思議」に関する問い合わせです。そんな中、司書の誰もが「初耳」という調査依頼が舞い込みました。

Q. 菅江真澄が紀行文の中で越後の七不思議の一つとして、「キツネのムスビ」というものを紹介しているらしいので、その記述を見てみたいです。

A. たしかに菅江真澄は奥羽への旅で越後を経由していると思われ、越後をテーマとした作品も数点残しています。しかし、越後に関する記述は他の作品でも随所に散見されます。全集は全部で13冊。索引がないため、内容確認には精読を要し、完全な確認は不可能と思われました。途方に暮れていたところ、別の司書から『高志路』145号に「菅江真澄の越後路」(内田武志)という論文があるとの情報を得ました。これは「真澄の後年の全記録のうちから、越後に関する資料を拾いあつめて、その足どりを綴りたどってみよう」とした論文で、作品名と該当する文章を紹介しています。これによると、菅江真澄が作品の中で「越後七不思議」を意味する言葉を使っている箇所は、『粉本考』の「こしの七つのことなる事ありける、そがなかに安田の三度栗とて、としのうちに三たびなる栗の樹あるなり。」とあるところだけのようです。他に、『粉本稿』で「雨が崎の草水」として燃える水=石油を、また、『久保田の落穂』の「火の井掘りしものがたり」の中で、「如法寺村の火井」と

して燃える気=天然ガスを記しているものの、七不思議の一つとは明記していません。さらに困ったことに、「キツネのムスビ」に関する記述が見当たりません。「キツネのムスビ」とは一体何なのでしょう。まずは、そこから調べ直すことにしました。

「狐むすび」に関する解説は、『菅江真澄』読本』(田口昌樹/著)のp74~76にありました。これには、「『凡国奇器』の中にそのスケッチをのせ、その説明文には...」「このスケッチに対応する文章が日記『えみしのさへき』の中にあり、ほとんど同じ絵がのっている」とあります。挿絵を見ると、葦の葉の片方がもう一方に結ばれたようになる現象を指すようです。解説には「狐むすびの発生については元東大教授白井光太郎がその著書『植物妖異考』の中で、「小さな虫の寄生による」と記したことから、これが定説となっていた。しかし秋田の野草研究者三人の共同研究により、「葦自体の生長障害によるもの」であることがわかった。」とあります。「えみしのさへき』『凡国奇器』の他に、『かたみぶくろ』にも狐むすびに関する記述が二行程あるのを確認しましたが、いずれも越後に関する事象ではありません。念のため、『越後七不思議』(中野城水/著)や『越後伝説四十七不思議解』(中原敬蔵/著)なども確認しましたが、狐むすびに類するものは見つけれませんでした。

ここで完全に行き詰まってしまいました。そこで、依頼者にその情報源について再度お訊ねしてみると、“実は、知人から「菅江真澄が越後七不思議の一つとしてきつねむすびを『えみしのさへき』の中で紹介しているが、越後七不思議とは何なのか」という問い合わせがあったのです。どうも東洋文庫の『菅江真澄遊覧記2』が情報源らしいのですが。”とのことでした。

所蔵資料で確認すると、たしかに『えみしのさへき』が収載されており、その注に狐むすびの類例として「...越後では七不思議の一つとされ、蒲原郡如宝寺村では親鸞上人ムスピアシといった」とあります。「蒲原郡如宝寺村」はおそらく火井で有名な「如法寺村」のこと。「親鸞上人ムスピアシ」は「片葉の葦」のことでしょうか？しかし、片葉の葦は直江津市国府のお話ですし、結ぼうにも片方の葉はありません。

とりあえず、越後七不思議の概要や越後七不思議と言われるものに該当する類例がないことなど調査経過をお伝えして回答としました。

それにしても、まるで狐につままれたような調査でした。

レファレンスQ&A番外編

調査相談業務の10年

前回に引き続き、通常の「レファレンスQ&A」の番外編として、新館開館以降の当館の調査相談業務を、統計を基に振り返ります。

前回のこのコーナーでは、調査相談業務の変化を、依頼方法の面から考察してみましたが、今回は依頼内容の面から見ていきたいと思えます。

2. 依頼内容別による変化

当館では毎日いろいろな調査依頼を受けます。統計ではそれを6つに大別して、以下の項目に当てはめています。

所蔵調査

『x』というタイトルの資料、xさんが書いた本といった、ある程度資料を特定して、当館の所蔵の有無を確認する調査は、ここにカウントします。

所蔵機関調査

の調査でお求めの資料が当館に無かった場合、ほかの図書館で所蔵していないか調査するケースもあります。所蔵している図書館から資料を取り寄せたり、資料の一部を複写してもらうこともできます(実費)。

書誌的事項調査

ある本の出版者や出版年、価格などを調査したときに用いる項目です。依頼者が実際に資料を購入する際などによく訊かれます。

簡易な事実調査

言葉の意味や統計などの数値を、資料に基づいて回答したときに使用する項目です。

文献紹介

「xについての資料」という依頼の場合、キーワードなどから資料の有無を検索し、依頼者にご紹介することがあります。

その他

施設の案内、郵送による複写などが含まれます。

このなかで回答に至るまでのプロセスが、10年前と現在とで大幅に違うのは、所蔵機関調査です。今ではインターネットなどで即座に調べられるようになりましたが、昔は各図書館の冊子体目録や、直接図書館に問い合わせるケースが一般的でした。平成9年度に受け付けた、とある自治体に関する資料の所蔵機関調査の記録を見てみると、

国立国会図書館では所蔵なし

当該自治体の公立図書館に問い合わせるが所蔵なし

国立国会図書館に照会して私立大学図書館で所蔵していることを確認する。

と、様々なステップを経ていることがわかります。また、簡易な事実調査や文献紹介においては、より専門的な資料を必要とする事例が増えつつあります。当館ではこのような事例を分析し、各種業務の参考にしています。

依頼内容別 調査相談件数(平成5~14年度)

	所蔵調査	所蔵機関調査	書誌的事項調査	簡易な事実調査	文献紹介	その他	計(件)
平成5年度	3,292		65	294	1,799	772	6,222
平成6年度	不明						6,304
平成7年度	3,894	392	179	122	2,308	214	7,109
平成8年度	5,061	791	196	628	2,393	184	9,253
平成9年度	4,749	1,049	188	635	2,625	238	9,484
平成10年度	5,628	1,499	314	903	3,003	440	11,787
平成11年度	5,674	2,087	241	965	3,025	699	12,691
平成12年度	5,495	2,051	388	783	3,150	562	12,429
平成13年度	6,190	1,823	320	916	4,132	332	13,713
平成14年度	6,524	1,662	204	811	4,086	369	13,656

紙上データベース

地形図

地図は、絵地図、見取り図から各種の主題図まで非常に多くの種類がありますが、その中心的存在で、多目的に使用できるように作成されたものが国土地理院発行の地形図です。

本格的な地形図の作成は明治中頃から陸軍陸地測量部によって始まりました。

その後順次刊行を重ねて大正13年に約1,300面に及ぶ1/50,000地形図が完成し、ここで地形図の全国整備が完了しました。初測図刊行のあとはこの1/50,000地形図を手直しして使用していました。

戦後、陸地測量部の業務は国土地理院に引き継がれました。そして、1/25,000地形図の全国整備が始まり、昭和58年度に4,428面が刊行されて完成しました。また、1/50,000地形図は昭和40年から1/25,000地形図を基本図として編集し、4色刷りの新しい図に変わっています。なお、昭和49年からは新しい規格の1/10,000地形図が、全国の大きな都市部について作成発行されています。

現在、新潟県域を含む図面は、1/50,000地形図が59面、1/25,000地形図は176面、1/10,000地形図については新潟市中心部の3面が刊行されています。

地形図は最初の作図以来、何度か修正されてきました。

戦前の地形図は、写真撮影にはない描写のキメの細かさや手書きの味わいがあります。また、当時はすべてが軍事目的を最優先に作成されているため、当初から軍事機密に係わる部分の表現が消されていたり、改描されたりしているものがあります。

戦後になると、昭和30年代以降の高度経済成長による国土の大きな変化にともなって、昭和39年から写真測量を基本とする図式の地形図を作成するようになり修正の回数も増えて、常に現状に即した図面が得られるようになっていきます。

地形図を注意深く読むと、郷土の歴史を探る糸口が見出せます。特に都市部は明治以来大きく変貌していて、その変化を地形図の上で追うことは興味深

いことです。

たとえば、頻繁に修正測量されている1/50,000地形図「新潟」は、20回近く新しい地図が作図されています。この「新潟」を明治44年測図から順に見ていきますと、信濃川河口部の地形は著しく変遷していますし、低湿地帯で潟が点在していた新潟平野は、整然とした水田が広がる穀倉地帯に変わっています。また、その水田も宅地に代われつつあり、経年により地形や土地利用の状態が変化する様子を知ることができます。

当館では、新潟県関係の地形図の他に、全国の1/50,000地形図、1/200,000地勢図があります。

国土地理院発行では、1/25,000土地利用図と1/25,000土地条件図の本県分を所蔵しています。

土地利用図は、都市周辺を中心に土地利用調査がされた地域を住宅地区、商業地区、田、果樹園、針葉樹林などに分類して着色し土地利用の状況を描いたもので、新潟県は36図あります。

土地条件図は、地形図では表現しにくい自然堤防、埋め立て地等の分布や構造を図示して、洪水や高潮の被害を最小限に防ぐ目的で作られています。県内分は8図あります。

また、当館では県内各地域の「ゼンリン住宅地図」(ゼンリン)「メーサイズ住宅明細図」(刊行社、第一出版)を改訂ごとに収集しています。

住宅地図は1/1,500前後の大縮尺で、個々の世帯名や建物名を詳しく記載しています。新潟市は昭和30年代から、他は昭和50年代から所蔵しています。

地形図の詳しい所蔵状況については、当館ホームページにあります地図目録(PDF文書)でご確認いただけます。

参考文献

「最新地形図の本」(第2版 大森八四郎著 国際地学協会 1992)

このテーマにはこんな本



録

県内各地の美術館や博物館などで開催される「展覧会」。その展覧会の際、発行されるのが「図録」（展覧会カタログ）です。図録には、展示される資料の図版の他、作家の情報や、関係する文献などの情報が満載されているものも少なくありません。そこで今回は、当館で所蔵する図録のうち、県内の美術館で開催された、新潟県ゆかりの作家の展覧会の図録を中心に、ご紹介したいと思います。

まずは、栃尾市美術館。『栃尾市美術館は、市制40周年を記念して建てたものです。上杉謙信公以来由緒ある歴史と豊かな自然に恵まれた栃尾市にもっともふさわしい「ふるさと美術館」になるよう、栃尾城址を借景に、市街地が全望できる、俗に「七曲がり」と称する秋葉公園に隣接した台地の上に建設しました。』（栃尾市美術館HPより）そのオープンを記念して開催されたのが「郷土ゆかりの作家秀作展」（1995年11月24日-1996年1月15日）[708-To16]です。富川潤一、椿悦至、桐生照子らの作品が紹介されています。

「堀愛泉とその仲間たち展」（1996年6月14日-7月14日）[728-H87]

「千城孤己任展」（1997年4月26日-6月8日）[721-C48]

「那須正丘・田中勢い子二人展 書・茶の湯の世界」（1998年6月16日-7月20日）[791-N56]

「増井和弘展」（1998年7月28日-10月11日）[723-Ma67]

「筒場大山展」（2000年6月6日-7月16日）[748-Ts93]

「椿悦至 写実の軌跡 画業70年にむけて」（2001年9月22日-11月25日）[N723-Ts14]

「齋藤三郎・尚明父子展 栃尾ゆかりの陶芸家」（2002年10月5日-12月8日）[N751-Sa25]

こうした栃尾ゆかりの作家の図録のほか、栃尾市に勤務した教員の作品を集めた「なつかしの先生作品展」（2000年9月15日-11月26日）[N708-To16]や、「東欧絵本の世界展」（2000年7月22日-9月3日）[726-Sh18]といった図録も所蔵しています。

新津市美術館は、1997年10月、新津市蒲ヶ沢に

オープンしました。その開館記念「魂の涯なき旅 - 笹岡了一展」（第1部：10月1日-11月23日・第2部：1998年1月6日-3月15日）の図録が「笹岡了一 1907/1987」[723-Sa78]です。笹岡は、中蒲原郡金津村（現新津市）生まれ。1992年、笹岡の作品163点が新津市に寄贈されました。

また、「ユゼフヴィルコン日本巡回展（1999.5～2000.3）図録」（2000年3月11日-4月9日）[726-W73]や、「ユトリロとヴァラドン展」（2000年12月1日-2001年1月21日）[723-U96]なども所蔵しています。

西蒲原郡黒埼町大字山田（現新潟市山田）に、1993年にオープンしたのが、美術育成財団雪梁舎が運営する、雪梁舎美術館。ここを会場に、黒埼町制施行25周年記念「亀倉蒲舟卒寿の軌跡」（1998年4月3日-5月17日）[756-Ka34]が開催されています。我が国を代表する金工芸作家亀倉は1907年西蒲原郡粟生津村（現吉田町）に生まれ、2歳の時、黒埼村木場へ移っています。この他にも郷土ゆかりの作家展が開催されていますので、いくつかご紹介いたします。

「三輪晃久展 第1回雪梁舎特別展」（1994年11月22日-1995年1月22日）[721-Mi68]

「祈りの風景 柴田長俊の世界展 第2回雪梁舎特別展」（1996年6月5日-7月21日）[721-Sh18]

「江川蒼竹回顧作品集 悠々たる墨人」（2000年10月7日-12月10日）[728-E29]

「長井亮之作品集 長井亮之白寿回顧展 飛翔・錦秋の朱鷺」（2001年10月7日-11月25日）[721-N14]

「大橋広治展 画業五十年記念」（2002年10月19日-11月10日）[N723-O28]

「三浦小平二展 青磁の世界 人間国宝 雪梁舎設立十周年記念」（2003年10月4日-11月3日）[N751-Mi67]

このほか、雪梁舎が開催している公募展「雪梁舎フィレンツェ賞展」（第1回～第5回）[N708-Se93]なども所蔵しています。

長岡市今朝白には、駒形十吉記念美術館があります。故駒形十吉氏収集による美術品の公開を目的に、

1994年5月にオープンしました。「開館一周年記念展」[708-Ko46]や、所蔵する作品を収録した、「速水御舟」[721-H47]、「加藤唐九郎」[751-Ka86]などを所蔵しています。

三島郡寺泊町に、実業家であり、作家でもある相澤直人氏が1989年にオープンさせたのが相澤美術館です。「ことばの姿草玄の書」(前期:1992年3月5日-6月30日・後期:1992年7月2日-10月13日)[728-E33]や、「難波田史夫 生と死の相剋」[723-N48]、「長崎莫人の世界」[721-N21]などを所蔵しています。

1985年10月、新潟市西大畑に開館したのが新潟市美術館です。ここでも、郷土作家シリーズなど、郷土ゆかりの作家の展覧会が開催されています。

「旧BSN新潟美術館所蔵品展 近代および現代美術を中心に」(1987年12月18日-1988年1月24日)[708-N72]

「永遠の旅人西脇順三郎詩・絵画その周辺」(1989年4月1日-5月14日)[911.5-N87]

「高橋清彫刻展」(1989年6月27日-7月19日)[710-Ta33]

「星裏一回顧展 樹シリーズ全作品」(1991年6月7日-6月30日)[N733-H92]

「新潟市野外彫刻大賞 野外彫刻のためのマケット100展」(1994年8月5日-9月4日)[N712-N727]

「倉石隆展」(1995年9月14日-10月22日)[723-Ku52]

「森川ユキ工展 妖かしの無言劇場」(1999年12月3日-2000年1月16日)[723-Mo51]

「阿部展也展 画家・阿部展也発見」(2000年9月12日-10月22日)[723-A12]

「西海岸の風展 ニイガタ ロサンゼルス ナゴヤ」(2002年2月10日-3月24日)[N708-Ki39]

「木の詩 近藤邦雄展」(2003年2月8日-3月23日)[N713-Ko73]

また、「モディリアーニとその時代」展カタログ」(1997年9月2日-10月19日)[723-Mo13]、「ロバート・キャパ全作品展」(1999年8月20日-10月17日)[748-C16]など、海外作家の展覧会図録も所蔵しています。

次に、新潟県立近代美術館をご紹介します。新潟県立近代美術館は、1993年、それまで新潟市にあった新潟県立美術博物館から発展し、長岡市に新たに開設されました。その開館記念展が、「大光コレク

ション展」(1993年7月15日-9月5日)[N708-N725R]です。大光コレクションは、財団法人長岡現代美術館が中心となり、日本の近代美術史上欠く事のできない代表的な作家の作品をはじめ、海外にも眼をむけた収集がなされました。この展覧会では200点余りが展示されています。また、この長岡現代美術館では、長岡現代美術館賞を開催しましたが、この作品を展示した「長岡現代美術館賞回顧展1964-1968」(2002年4月20日-6月9日)[N708-N725R]も開催されています。以下、開催順にいくつかご紹介します。

「佐々木象堂とモダニズム 金属工芸家と転換の時代」(1994年1月21日-2月27日)[756-Sa75]

「佐藤哲三展」(1995年2月10日-3月26日)[723-Sa85]

「戦後の書・その一変相 江口草玄」(1996年11月1日-12月15日)[N728-E33]

「デザイナー亀倉雄策展」(1999年2月2日-3月14日)[727-Ka34]

「横山操展」(1999年12月4日-2000年1月23日)[721-Y79]

「広川松五郎・高村豊周展」(2000年4月15日-5月28日)[750-H71]

「日本画の三人 大矢紀・三輪晃久・山崎隆夫展」(2001年9月15日-10月28日)[N721-N725R]

また、話題となった「シカゴ美術館展」(1994年4月20日-5月29日)[723-N72]、「パリ・オランジュリー美術館展」(1997年7月10日-9月12日)[723-Mi89]といった図録なども所蔵しています。また、「ナビ派と日本」(2000年9月15日-11月5日)[723-N72]は、平成13年度の「倫雅美術奨励賞」を受賞しています。

最後に、デパートで開催された展覧会の図録をいくつかご紹介します。

「丸山本間正三2人展 画業70年」(1996年5月2日-7日・長岡大和)[723-Ma59]

「五代伊藤赤水展 作陶三十周年特別記念展 無名異 赤と炎の世界」(1997年11月6日-11日・新潟大和)[751-I89]

「大矢紀展 画業四十五周年記念」(1998年10月15日-20日・新潟大和)[721-O94]

当館では今回ご紹介した以外にも多くの図録を所蔵しています。「図書館」で「美術館」巡りをしてみては、いかがでしょうか。

インフォメーション

南山図書館との交流事業

新潟県立図書館は韓国ソウル特別市立図書館南山図書館との間で平成14年8月に友好協定を締結し、10月の南山図書館創立80周年記念式典には館長が出席、祝辞を述べました。そして15年度より本格的な交流事業を開始しました。

10月21日から24日の間、南山図書館より趙吉衡（チョウキルヒョン）館長をはじめ4名が来県されました。両館による協議会では交流のあり方が話し合われ、職員の相互訪問や、図書の交換、相互貸借事業を柱とした、友好交流協議書を締結しました。

そして22日には、南山図書館裴純智（ベスンジ）資料奉仕課文学室主務により「韓国の図書館」と題した講演が行われました。この講演会には図書館以外の方も含め、約50名が参加しました。図書館という限られたテーマでの話にもかかわらず、講演後の質問は、県民の方々から数多く寄せられ、時間が足りないほどでした。今後もこのような図書館を利用する人たちと触れ合う機会を設ける予定です。

また平成15年度は100冊ずつの図書交換事業として、今までの新潟出版文化賞受賞作品など新潟県を紹介する図書を韓国に送りました。

そして平成16年3月16日から18日までの間当館職員2名が韓国を訪問、日本の図書館事情について講演を行います。また南山図書館では交換図書を中心に新潟に関する展示会を開催します。

もうお済みですか？

3月は引っ越しのシーズンです。

お手元に図書館の本はありませんか。

ご返却は、期限内にお願いいたします。

郵送や宅配便でも結構です。

住所や電話番号の変更手続も、お忘れなく。



郷土資料を図書館にご寄贈いただけませんか？

県立図書館では、新潟県や県内各市町村に関する資料を郷土資料として利用者の方に活用いただいています。また、個人の方の著作物だけではなく、行政資料や団体が発行した資料も集めています。

郷土に関する資料を出版されましたら、ぜひ、県立図書館にご寄贈いただけないでしょうか。（できれば2部お願いします）

ご寄贈いただいた資料は、後世に伝えるべき文化遺産として大切に保存します。

お問い合わせ・送付先

〒950-8602

新潟市女池南3丁目1番2号

新潟県立図書館 郷土資料係

tel : 025-284-6001

fax : 025-284-6832

E-mail : npl@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp